

二〇一九年五月、僕の住む大津市で何とも痛ましい交通事故が起こった。その日は、五月晴れの名の通り、気持ちの良い晴天で散歩日和であった。近くの保育園の二歳・三歳の園児達が先生方とお散歩に出かけ、歩道に並んで信号待ちをしていた、まさにその時。その列に車が猛スピードで進入し、十数名の死傷者を出した。悲惨な事故だったので、記憶に残っている人も多いのではないだろうか。僕も度々思い出し、亡くなった園児を偲び、けがをした子は後遺症に苦しんではいないかと心配が募り、この事故のことを忘れることができない。

全てのドライバーが交通ルールを遵守し安全運転するのは、守るべき当然の規則である。この事故だけでなく、全国各地で登下校中の小学生の列に車が追突する悲しい事故を耳にすることがある。多くの事故は、ドライバーの不注意に起因し、注意深く安全運転を意識していれば、起こらなかった事故も多いのではないだろうか。惨事に巻き込まれた、歩き始めて間もない園児達や、学校の荷物を抱え、元気に登下校する小学生達には、その瞬間、自分の命を守る術があったのだろうか。

二〇一九年六月に行われた国の「昨今の事故情勢を踏まえた交通安全対策に関する関係閣僚会議」において、地域ぐるみで子どもを見守るための対策の一つとして、キッズゾーンの設定が推進されることとなった。大津市では全国に先駆けて、その翌月からキッズゾーンが設置されることとなった。保育園等の園外活動の安全を確保するため、園の周辺道路に、緑色と白色でキッズゾーンと大きく描くのである。

僕は、キッズゾーンの色鮮やかで温かな緑色には大きな意味があると思う。人の目をひく鮮やかで優しい緑のペイントは、地域の人達みんなの目でキッズゾーンを確認し合い、交通事故だけでなく様々な危険から、子ども達を見守ることに繋がっていると思う。

信号機やガードレールなど人を危険から守る設備や対策は、今までも多く既存していたが、新たに設置されたキッズゾーンの意図を知り、税金がこのように人々の命を守るために使われていることに気付くきっかけとなった。大切な命が危険に晒されないように、大切な税金が活用されている。

一人一人の力は小さいが、税金を納めることができる。近い将来、社会人となって税金を納めるであろう僕達が、今すぐにできることは、税金の用途を知り、税金により国民の生活が守られていることに気付き、感謝して過ごすことではないだろうか。大切な命が亡くなることのないように、誰かの命を守るために、命を繋ぐために、様々な所で活用されている税金について、キッズゾーンを通る度に一考し、社会の一員として、日々感謝の気持ちを持ちながら過ごすことを、強く決意した。